

イチゴ食べて合格を 「こまち野」羽後中3年生に贈る

きょう7日の高校入試を前に、羽後町内でイチゴ栽培を手がける「こまち野」(小野雅敏社長)は羽後中学校の3年生106人に、合格を祈願したイチゴを1人パックずつ贈った。



同社の母体の農事組合法人が2014年、生徒たちに

「イチ」番に「ゴウ」格を果たしてもらおうとイチゴのプレゼントを始めた。昨年10月に発足したこまち野が事業を引き継ぎ、約4千平方メートルで栽培している。

同町字南野の栽培ハウスでは「紅ほっぺ」「あきひめ」「かおり野」の3品種が育てられている。生徒には、いずれかが約200グラム入ったパックが贈られた。

2月27日に行われたハウスでの贈呈式には生徒の代表4人が訪れ、合格祈願の神事後に小野社長がイチゴを手渡した。受け取った藤原大我さんは「地域の皆さんに応援してもらえるのはありがたい。イチゴを食べ、最後まで受験勉強を頑張りたい」と感謝した。

小野社長は「イチゴはビタミンCが豊富。風邪をひかないよう体調管理に気を付け、ベストを尽くしてほしい」とエールを送った。(小林智彦)